

令和5年(2023年)5月19日

保護者様

光市小学校長会

笑顔いっぱいの小学校をめざして（マスクの着脱について）

平素から、本市小学校教育の推進に御理解・御協力をいただき、心から感謝申し上げます。

さて、5月8日に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症に移行され、学校においてもこれまで制限されてきた教育活動を、その必要性を検討した上で積極的に実施していくなどの対応が求められています。

そのような中、文部科学省から令和3年度に行った「生徒指導上の課題に関する実態調査結果」が公表され、その結果から、国や県と同様に本市においても「いじめ」や「不登校」などが増加傾向の状況であることが示されました。このことについては、新型コロナウイルス感染症による行動制限などにより、人間関係や生活環境が変化したことが影響したとみる報告もなされています。

そして、新型コロナウイルス感染症を防ぐ目的で推奨されてから、3年以上続いたマスクの着用も人と人とのつながりを妨げる要因であったと考えます。

私たちは、相手の表情やしぐさなど様々な非言語から相手の気持ちを読み取ります。特に小学生にとっては、発達の段階を考えると、顔の表情はコミュニケーションをとる際、とても重要なものになります。それがマスクによって妨げられ、相手も気持ちや思いが分かりにくく、自分の気持ちをうまく伝えられない不安から、よりよい人間関係を作ることが難しくなっているのではないのでしょうか。

この3年間で、同じ学級で過ごす同級生の顔も、日々授業をしている先生の顔もよく見えないまま、マスクをしていることが日常となっています。そのため、マスクをしていない顔を見られることが「恥ずかしい」と感じる子どもが一定数いるようです。

マスクが自分の顔だけでなく、自分そのものを隠すものとなり、子どもたちが本当の自分の姿で生活することをためらっているのであれば、子どもの心身の発達や成長において影響が出てくるのが心配です。

学校は、子どもたちの社会的自立のために重要なコミュニケーション力を育む場です。その学校において、子どもたちが安心して自分を表現できるようになるために、あらためて保護者や地域の皆様に、マスクの着脱についての御理解・御協力をお願いします。

また、学校においてマスク着用の有無により偏見や差別が生じないように、子どもたちをしっかりと見守ってまいります。

<保護者の皆様へのお願い>

○5類感染症に移行したこの機会に「心身の発達や成長」の観点から「子どものマスク」についてあらためてお考えいただき、御家庭で話し合う機会を設けていただきますようお願いいたします。

○引き続きお子様の体調管理をお願いします。風邪の症状等がある場合は、登校を控えていただきますよう御協力をお願いします。

○様々な事情によりマスクをしている子、そしてマスクをしていない子もいます。このことによって偏見や差別につながることをのらないよう、御理解の上、温かく見守っていただきますようお願いいたします。